

和而不周

“人生は選択の連続である”。スマホの目覚ましアラームを五分おきに設定するのは、いかに日常が“選ぶ”ことから始まっていくかを物語っている▼とある研究によれば、人は日に最大三万五千回も

の“決断”（選択）を行っているそうだと例えば朝の支度ひとつとっても、やること（行動選択）づくしである。起床・洗面・洗濯・着替え・食事・片付け・・・、ニュース・お天気・交通情報のチェックに忘れ物確認・身だしなみ・・・▼巷では、『〇〇の決断疲れ』という言葉があるらしい。仕事・家事・育児・・・ナゼ「決断が疲れるか」といえば、その頻度はさることながら、同時にそれが「責任を伴う」場合があるからだろう▼《幼い子どもを病院（内科）に連れていくかどうか》の見極めは、本当に難しい。特に困った時の『様子見（ようすみ）』という先延ばし手段はより親を翻弄させる。《変に行くことで、かえって待合室で他の病気をもらうかもしれない》《今は大丈夫そうでも、様子見のうちにひどくなるかもしれない》▼こうしたいわば結果への恐れ度合いは、親（決断主体）としての責務の重みの裏返しであろう。ここに変な厳しさがある。それを「疲れ」ととるか親の「証（あかし）」ととるか。

